



出会いに感謝

税理士 升田 幸子

そろばんを習い始めたのは小学1年生の時です。3歳上の姉がそろばんを練習している姿をみて、私も姉の真似をしたくて「そろばんをやりたい」と母に言ったことを覚えています。

近所の梶谷珠算塾に入塾し、そこで梶谷成子先生に出会いました。先生はいつも元気いっぱい、声が大きく、先生と話すだけでパワーをもらえる、そんな先生でした。しかし、練習についてはとても厳しく、先生から逃げるように教室の後ろの席に座っていた時期もあったことを思い出します。

小学2年生から選手クラスに入り、大会にも参加できるようになりました。その頃から、そろばんは単なる習い事から、「生活の中心がそろばん」へ変わっていきました。

練習に励む日々は楽しいことばかりではなく、スピードと正確性、このどちらも伸び悩み、つらい時期が何度もありました。その度にそろばんをやめたいと思いましたが、「やめたい」と先生に言うのが怖く、打ち明けられないまま練習を続け、気付けばまたそろばんが楽しくなっている、ということを繰り返していたように思います。

今考えると、ただ怖いだけではなく、がんばったときは力強く抱きしめて褒めてくれる、そんな先生が大好きで、先生に褒められたいという気持ちでがんばっていたのかもしれない。

小学生の高学年から中学生になると、大会の団体メンバーに選んでもらえることが増え、他のメンバーの努力を間近で見ている分、私が足を引っ張らないようにという思いで、練習に励んでいたと思います。高等学校で珠算部に入部すると、中学時代とは比べものにならないくらい練習に明け暮れる日々が始まりました。毎朝5時に起床して、7時30分からの早朝練習、授業が終わったら放課後3時間の練習、土日祝は8時間、休みは正月三が日のみというスケジュールで、高校時代は、「生

活のすべてがそろばん」でした。

このつらい日々を乗り越えられたのは、厳しくも温かく指導してくださった顧問の早川雅美先生や、一緒に切磋琢磨してくれた仲間と、生活を支えてくれた家族のおかげです。

練習の成果が実を結び、団体戦で高校日本一を達成できたことは、私のそろばん人生における最大の喜びとなりました。

現在は、税理士として独立開業し、日々の業務に励んでおります。税理士試験は平均合格年数が7年程度と言われる長丁場な試験で、私は資格取得まで9年かかりました。勉強時間を確保できず受験を断念した年もありましたが、「継続すれば必ず結果につながる」という信念が私を支えてくれました。この揺るぎない信念は、そろばんを通じて培ったもので、自分自身が幼い頃から身をもって経験していたからこそ、自分を信じてがんばり続けることができたのだと思います。厳しくも愛情深く指導してくださった先生方に、心から感謝しております。この出会いがなければ、粘り強く何かに挑戦できるような精神力は養われていなかったと思います。

そろばんとの出会い、技術指導だけでなく人生の師として私を導いてくれた先生方との出会い、一緒に切磋琢磨してくれた仲間との出会い、その他多くの珠算関係者の方々との出会いは、私の人生に大きな影響を与えてくれました。私を育ててくださった皆さまへの感謝を忘れず、これからも税務の専門家としての責任を果たしながら、社会に貢献できるよう精進してまいります。

文中の、梶谷成子先生（日本珠算連盟広島県連絡協議会会長）は、2025年2月9日逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。